

科目名		学年	単位	授業時間	科目区分	授業形態	学修単位
国語Ⅱ(現代文・古文) : Japanese II		2MEC	2	90分×30回	履修	講義・通年	—
教員名		中井 賢一 : NAKAI Kenichi					
授業概要	<p>検定教科書掲載の現代文・古文を素材として、国語科四内容(話す・聞く・書く・読む)についての応用的運用力を養う。 現代文領域においては、評論からは筆者の見解を、また、小説からは作品の主題を、いずれも正しく「読む」方法を学ぶとともに、自身の感想や意見を正しく「書く」ために、また、「話す」ために必要な知識や技能の習得を目指す。語彙力の充実を図るため、適宜漢字テストを行う。 古文領域においては、文法事項の理解のみに留まらず、鑑賞文の制作を通して作品享受のありかたについても考える。 語彙力の充実と定着を図るため小テストを、また、速読力の強化を図るためリーディング課題を、それぞれ適宜実施する。</p>						
到達目標				評価方法			
(1) 評論・小説の特徴を理解し、それぞれ正しく読解することができる。 (2) 自らの感想や意見を適切に表現することができる。 (3) 文語文法等についての理解が定着し、作品を読み味わうことができる。 (4) 文学史について、正しく理解することができる。 (5) 自身の見解を、鑑賞文として簡潔に表現することができる。				① 試験(中間・期末)(60%) ② 到達度確認テスト・小テスト・リーディング課題・鑑賞文(20%) ③ 自学レポート(10%) ④ 口頭試問(10%)			
学習・教育目標		G①		JABEE基準1(1)		—	
授 業 計 画	回	項目	内 容	回	項目	内 容	
	第1	ガイダンス	授業の概要と授業の受け方について理解する。	第16	和歌①	暗唱テストを行う。和歌のリズムを理解する。	
	第2	評論(1)①	「ミロのヴィーナス」を素材として、評論文の読解方法について理解する。	第17	和歌②	和歌修辞法に習熟し、作品の主題と背景について理解を深める。変体仮名についての理解を深める。	
	第3	評論(1)②	〃	第18	和歌③	指定された和歌一首について、鑑賞文を書く。相互評価を行う。	
	第4	古今著聞集	「能は歌詠み」を素材として、文法事項の知識と和歌読解の方法について復習する。	第19	評論(2)①	「環境問題への視点」を素材として、評論文の読解方法に習熟する。筆者の見解に対する自分の意見をまとめる。	
	第5	十訓抄	「博雅の三位と鬼の笛」を素材として、文法事項についての理解を深め、作品の主題を読み取る。	第20	評論(2)②	〃	
	第6	宇治拾遺物語①	「夢買ふ人」を素材として、文法事項についての理解を深め、作品の主題を読み取る。	第21	小説(2)①	「ころも」を素材として、小説の読解方法に習熟する。主題に対する自分の考えをまとめる。	
	第7	宇治拾遺物語②	〃	第22	小説(2)②	〃	
	第8	到達度の確認	「到達度確認テスト」を行う。	第23	小説(2)③	〃	
	第9	小説(1)①	「山月記」を素材として、小説の読解方法について理解する。	第24	小説(2)④	「ころも」作中人物論としてレポートを書く。	
	第10	小説(1)②	〃	第25	更級日記①	「門出」を素材として、助動詞・助詞までの文法事項を整理しつつ、作品の主題を読み取る。文学の享受について理解する。	
	第11	小説(1)③	「山月記」の主題について、レポートを書く。相互評価を行う。	第26	更級日記②	〃	
	第12	伊勢物語①	「初冠」「渚の院」を素材として、和歌修辞法についての理解を深め、作品の主題と後世への影響について考える。	第27	源氏物語①	「光源氏の誕生」(冒頭)を暗唱する。源氏物語の文学史上の位置と後世への影響について理解する。	
	第13	伊勢物語②	〃	第28	源氏物語②	「光源氏の誕生」を素材として、敬語を中心とした文法事項について理解しつつ、作品の主題を読み取る。王朝の文化と政治について理解する。	
	第14	様々な平安文学	『落窪物語』(予定)の一節を素材として、平安文学の特徴について理解を深める。	第29	源氏物語③	〃	
第15	国語表現	有名小説作品を素材として、聞き書きを行う。	第30	まとめ	全体の学習事項のまとめを行う。授業評価アンケートを行う。		
自学自習の内容	レポートを課す。						
関連科目	国語Ⅰ						
教科書	『精選現代文』・『精選古典』東京書籍						
参考書	『ステップアップ高校漢字問題集』東京書籍、『カラー版新国語便覧』第一学習社						
授業評価・理解度	最終回に授業評価アンケートを行う。						
副担当教員							
備考	国語Ⅱ(3単位)の最終評価は、国語Ⅱ(現代文・古文)と国語Ⅱ(漢文)を2:1として評価する。						